



上原だより

渋谷区立上原小学校
校長 佐伯 孝司

<https://shibuya.schoolweb.ne.jp/1310240>

「一直線に並べる」から「ぐるぐる回す」へ

校長 佐伯 孝司



10月18日（土）の学校公開。保護者の皆様には、参観のみでなく、参加・参画していただく場面も少なくありませんでした。

2年生は、上原の地域探検に出掛け、地域の商店（街）の魅力、そこで働く人々の工夫や願い、生活等について取材してきたことについてまとめ、地域住民として商店を利用する保護者の皆様によりよく伝わるように工夫して発表しました。保護者の皆様にも、発表内容に対する質問や助言等をお願いしました。メモを取る方、身を乗り出して傾聴する方、笑顔で興味を示す方…こうしてお聞きになった内容について貴重な言葉をいただきました。この言葉から児童はまだ解決できていない課題に気付き、もっと伝えたいという意欲をもち、後日再び商店へと取材に出掛けていきました。11月15日

（土）の学校公開＝上原小シブヤ未来科発表会で、大好きな上原の魅力を伝えることができるよう、発表内容を練り上げているところです。

私は4年生に教室へ連れていかれました。教室では、避難所生活で使える

手作りの紙製スリッパを履く体験をさせてもらいました。学校のスリッパよりもクッションが効き、履いていて楽でした。周囲を見ると、不用になった紙パックや印刷用紙、段ボール等で作ら様々な避難所グッズが並んでいます。それを、保護者の皆様が使う体験をしてくださっています。その反応の様子やお話を受け、児童は避難所グッズを改善することができるでしょう。

他の学年も同様に、来校された皆様にご協力いただく場面がありました。ありがとうございます。

児童が、課題意識をもって調べ、解決策を検討し、自分の意見をまとめて発表する。これだけでも大事な学びになります。しかし、本校の児童は、できるだけそこにとどまることなく、発表したときに聞き手の反応をよく見たり、質問や意見をもらったりして、もう一度課題を認識したり、別の解決策



や意見をもつきっかけにしたりして、もっとよい発表をつくることをめざしています。その過程が、深い追究につながるとともに、その学び方を身に付けることも大切だからです。一般に、探究的な学びの過程は【①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現】とされています。本校の校舎内にもたくさんこの言葉があふれています。しかし、本校の児童は、この過程を「一直線に並べる」だけにとどまらず、「ぐるぐる回す」ことに挑戦しています。10月15日の学校公開での発表は、④まとめ・表現であるとともに①課題の設定、②情報の収集等もあり、再び探究的な学びの過程の始まりになっているのです。探究的な学びの過程がぐるぐる…=サイクル化されていくのです。その過程で、多様な立場から、多様な見方・考え方からの意見を尊重し、検討して生かすことを学んでいきます。主体的な態度が協働的な学びを促します。

本校教員は、児童がこのサイクルを自らの力で回していく力を身に付けてほしいと願っています。教科で学んだことがシブヤ未来科の探究活動に役立つように、また、シブヤ未来科の学習活動が教科の学びを深めるようにと考え、私たち教員チームも、ともに学び続けています。本校の教室内外の環境、タブレットでつくられるデータ共有の場も、児童の主体的な学習活動、楽しい学校生活につながるようにと考え、試行錯誤しています。

今後も、「ともに学ぶ」児童の学習活動にご協力をお願いいたします。

